第５学年１組　図画工作科学習指導案

指導者　　池内　達也

１　題材　　くねくねの木から何ができる！？　～『糸のこスイスイ』（日本文教出版５年）～

２　指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは，４年生「ギコギコトントンクリエイター」の学習において，のこぎりを用いて木を様々な形に切る活動を経験してきている。そこでは，組み合わせた形から見立てを行ったり，イメージを基に形や色を工夫したりして，思い思いの作品をつくる姿が見られた。このような子どもが，電動糸のこぎりを用いて木を曲線に切断し，それらを組み合わせたり着彩したりする活動に取り組めば，形や色などの造形的な特徴を捉えながら，自分にとっての意味や価値をつくりだし，つくりだす喜びを味わうことができるだろう。

＜題材について＞

本題材は，糸のこぎりを用いて木を切断し，それらを組み合わせて立体に表す題材である。糸のこぎりは，のこぎりとは異なり，木を曲線に切ることが可能である。そのため，不規則な形や無作為な形を生み出すことができる。子どもは，様々な形の木を構成していく中で，イメージを広げ，自分なりの形を追究していくだろう。ここでは，子どもが，形の組合せによるイメージの変容を捉え，更新してよりよくしていく姿を大切にしたい。

そこで，指導にあたっては，次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

○　のこぎりと糸のこぎりを用いて曲線を切り，違いについて探る場を設定することで，用具の使い方や特徴を捉え，活動の見通しをもつことができるようにする。

○　活動中に，自分の活動や作品を見つめたり，友達と交流したりする対話の場を適宜設定することで，イメージを広げながら活動することができるようにする。

○　題材の終わりに，作品紹介シートを作成し，主題についてクイズ形式で異学年の子どもや来校者に見せる場を設定する。そうすることで，表現の喜びを味わい，これからの表現の意欲の向上につなぐことができるようにする。

３　目標

⑴　木の板を切ったり板を組み合わせたりするときの感覚や行為を通して，形の造形的な特徴を理解する。また，木の板や糸のこぎりを適切に扱うとともに，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。　（知識及び技能）

⑵　板の形を組み合わせたときの造形的な特徴を基に自分のイメージをもち，感じたことや想像したことから表したいことを見付け，どのように表すかについて考えている。また，自分たちの作品の造形的なよさや面白さについて感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げている。　（思考力，判断力，表現力等）

⑶　主体的に木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，形や色などに関わり，楽しく豊かな生活を創造しようとする。　（学びに向かう力，人間性等）

４　well-beingにつながる学びについて

本学園では，well-being を「個人だけでなく，社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-being の実現には，教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を，人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには，エージェンシー（変化を起こすために，自分で目標を設定し,振り返り，責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考える。

本学園の図工・美術部では，感性や想像力を働かせ，対象を造形的な視点で捉え，自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだしていく子どもを育成する授業が，教科の本質に迫る授業だと捉えている。また，エージェンシーを発揮している姿を，自己や他者，作品や材料などと対話する中で自分の思いや願いをもち，自分なりの表現を追求していく姿だと捉えている。本題材においては，思いや願いをもつことのできるような教材・活動の提示に加え，活動途中における思いや願いの達成度について振り返り，学びを調整していくことのできる場を設定する。こうして，子どもが，思いや願いを実現するために，対象とじっくりと関わったり，他者と見方や感じ方を交流したりしながら，イメージを形に表していく様相を，エージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは，変化の激しい社会においても，自身のもつ感性や想像力を働かせながら，新たな価値をつくりだし，well-being の実現につながるだろう。

５　指導と評価の計画（総時数　10時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価規準・評価方法等				
			知識・技能		思・判・表		態度
			知	技	発	鑑	
一 ③	○　材料や用具と出合い，木の板を電動糸のこぎりを使って様々な形に切る ・のこぎりと糸のこぎりの違い ・電動糸のこぎりの使い方 ・多様な曲線の形	○　用具による違いに着目させることで，表し方の工夫に関心をもつことができるようにする	○	○			↓
二 ⑥ 本 時 ３ ／ ６	○　参考作品を鑑賞し，木の板の組合せによる印象について話し合う ・主題と木の板の組合せ方との関連付け ○　木の板の組合せ方を試す ・組合せ方による印象の違い ●　互いの活動を鑑賞し，工夫の視点を共有した後，自分の活動を振り返り，表したいことを決める ・自分の表したいことの決定 ○自分のイメージを形に表す ・イメージを表すための構成 ・イメージを表すための着色の仕方	○　作品や他者，自己と対話する場を設定することで，様々な方法を試したり，考え方を取り入れたりすることができるようにする ○　工夫の視点を共有する場を設定することで，思いの表し方を広げ，自分の表したいことに合った工夫をしながら作品に表すことができるようにする	○ ◎ 観察 対話 作品 WS	◎ 観察 対話 作品 WS	○ ○ ◎ 観察 対話 作品 WS		↓
三 ①	○　作品紹介シートを作成し，互いの作品を鑑賞する ・互いの作品のよさや面白さ ・つくりだす喜び	○　様々な人に作品の意図を伝えることで，表現することの喜びを味わうことができるようにする				◎ 観察 対話 作品 WS	◎ 観察 対話 作品 WS

６　本時案　―第２次・３時分―

⑴　主眼　　互いの活動を鑑賞し，木の板の組合せ方による印象の違いについて話し合った後に，自分の活動を振り返りながら活動していくことを通して，表したいことや表すための工夫について考えを深めることができる。

⑵　準備　　子どもの作品，グルーガン，ホットボンド，ワークシート　など

⑶　学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1　互いの活動を鑑賞し，工夫点を共有する 友達の活動を見て，どのようなことを考えて活動していると思うか ・表したいものについての見通し ・友達の作品から受ける印象 自分や友達の活動の工夫したところはどこか ・組合せ方による印象の違い	ア　縦・横・斜めといろいろな方向に組み合わさっていて，面白いな イ　高くつないでいるね。タワーや天に昇る感じをイメージしているのかな ウ　複雑に組み合わせていて，何か判断するのは難しいな。気持ちとか表しているようにも見えるよ ア　高さが出るように，バランスを取りながら，上につなげていったよ イ　縦横だけでなく，斜めに組み合わせると，面白い形になったよ ウ　たくさん組み合わせるところと空白にするところを強調させると，バランスの取れていない不思議な形になったよ	・　自由に友達の作品を鑑賞する時間を設定することで，活動の多様性に目を向けることができるようにする ・　グループごとに互いの作品について，「見えたもの」「受けた感じ」などの視点を基にして伝え合う時間を設定する。そうすることで，作品や見る人によって感じ方が異なることに気付くことができるようにする ・　木の板の組合せ方の工夫について，全体で共有することで，新たな工夫の視点に気付くことができるようにする	15
2　自分の活動を振り返り，友達から得た工夫も取り入れながら，組合せ方を試す これからどのように活動していくか ・活動の方向性の検討	ア　同じつないでいくにしても，空間や方向を意識して組み合わせていこうかな イ　せっかく二つとない曲線や尖った形があるのだから，この形を生かしたものをつくりあげたいな	・　活動の中で，いいなと思った形が生まれた際には，タブレットで撮影し，保存させておく。そうすることで，活動の過程を振り返ることができるようにする	35
3　本時の学習を振り返る 考えが広がったことはどのようなことか。また，考えが広がったのはなぜか ・発想や構想の広がりの自覚 ・対話することのよさ	ア　友達と交流して，自分の活動と向き合うことで，いろいろな工夫の仕方が見付かったな イ　同じの木の板でも，組合せを変えることで，違うものを表すことができたよ ウ　表したいものがだんだんと決まってきたよ。もっと思いに近付けるために，どうしたらよいかな	・　本時前と本時後の自分の思いや思いの変化，変化した要因などについて振り返り，シートに記入させる。そうすることで，自己や他者と対話することのよさに気付くことができるようにする	45

⑷　評価規準と方法

自分の活動を振り返り，表したいことや表すための工夫について考えを深めることができたか，活動の様子やワークシートの記述からみとる。

＜メモ＞